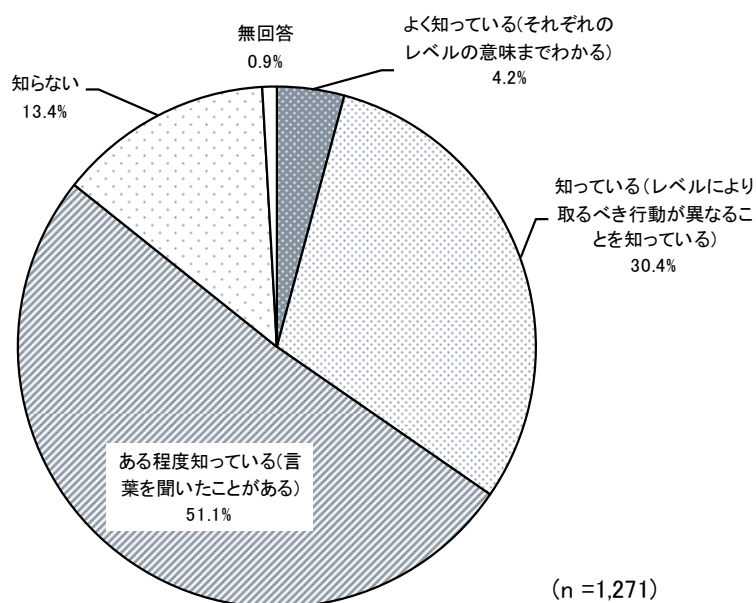


## 5 防災対策について

### (1) 避難情報（5段階の警戒レベル）の認知度

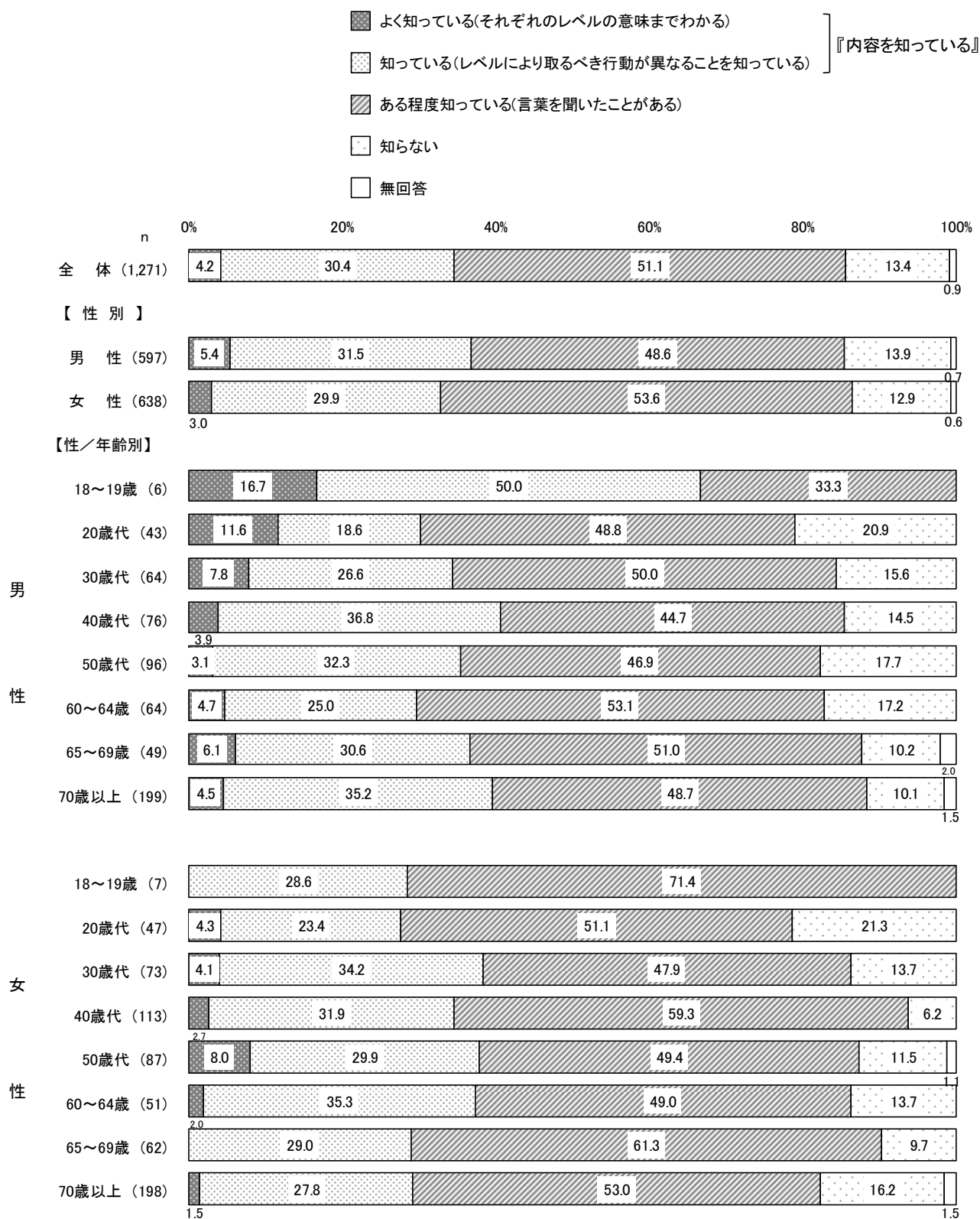
問13 あなたは、水害や土砂災害において避難するタイミングの目安となる「5段階の警戒レベル（高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保など）」を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 よく知っている(それぞれのレベルの意味までわかる)	4.2%
2 知っている(レベルにより取るべき行動が異なることを知っている)	30.4
3 ある程度知っている(言葉を聞いたことがある)	51.1
4 知らない	13.4
(無回答)	0.9



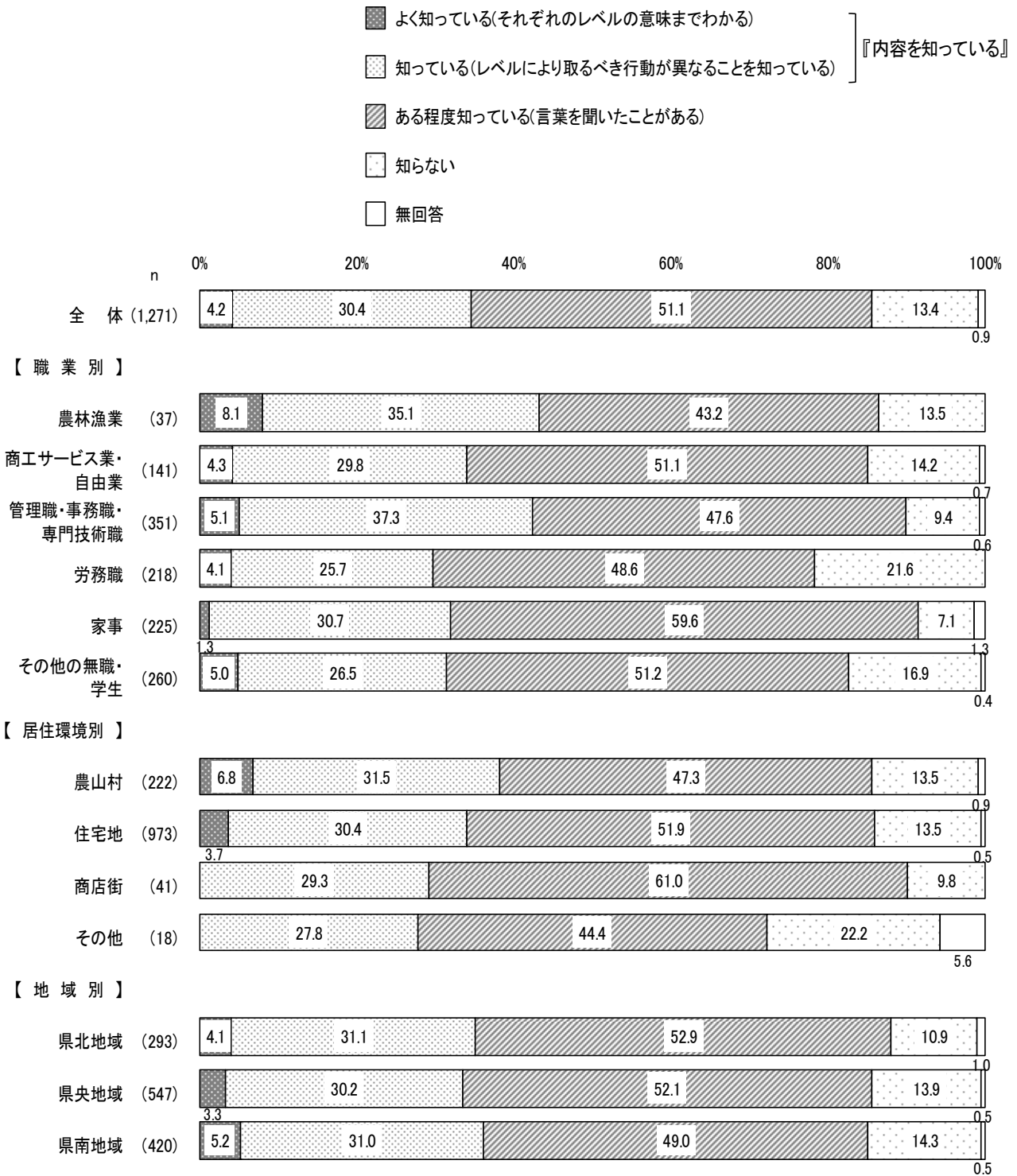
全体で見ると、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（51.1%）が5割強、よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（4.2%）と「知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（30.4%）の2つを合わせた『内容を知っている』（34.6%）が3割半ば、「知らない」（13.4%）が1割台前半となっている。

[性別・性／年齢別]



性別でみると、『内容を知っている』では、〈男性〉36.9%が、〈女性〉32.9%より4.0ポイント高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、『内容を知っている』では、〈農林漁業〉43.2%が最も高く、〈労務職〉29.8%が最も低くなっている。

居住環境別で見ると、『内容を知っている』では、〈農山村〉38.3%が最も高く、〈その他〉27.8%が最も低くなっている。

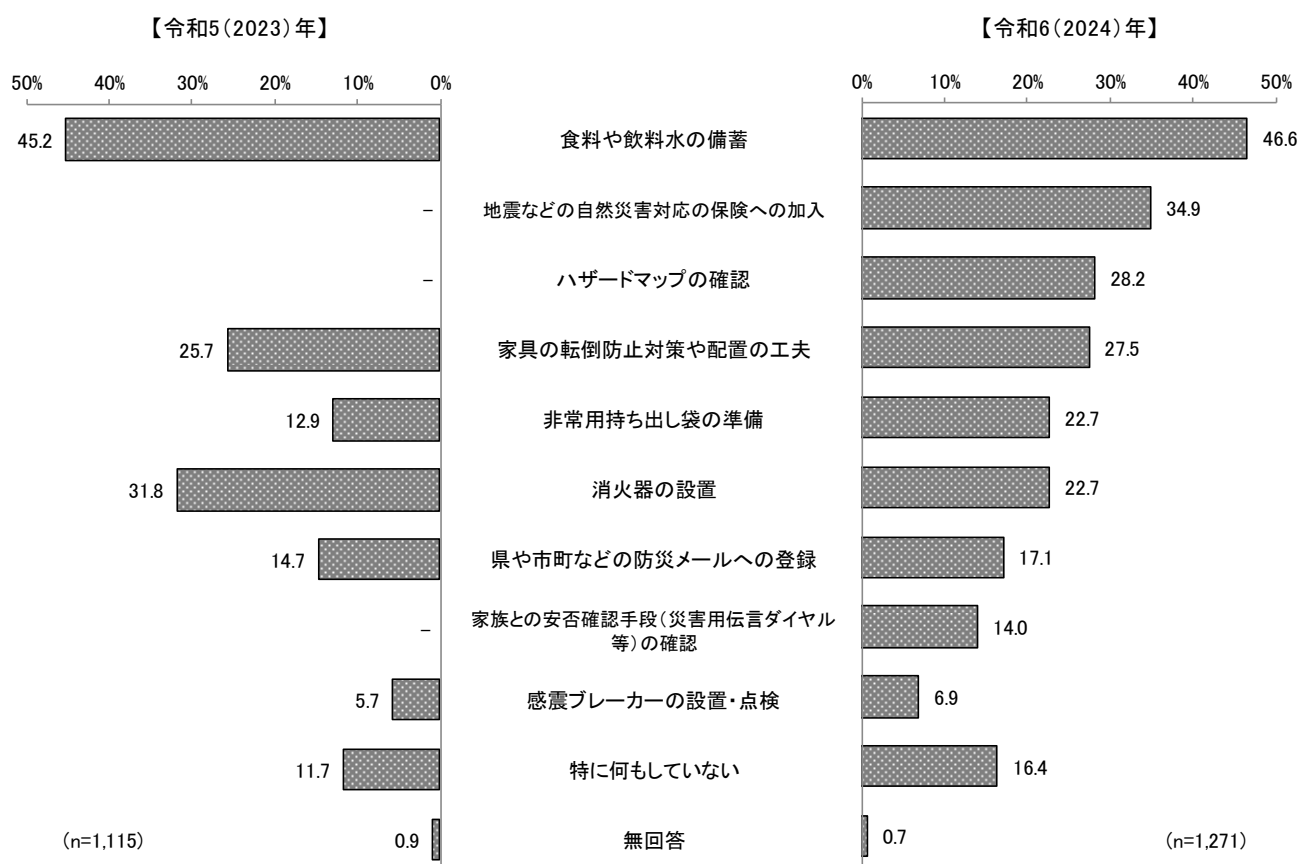
地域別で見ると、『内容を知っている』は、すべての分類で3割台であり、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 災害に対する備え

問14 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,271]

1	家具の転倒防止対策や配置の工夫	27.5%	8	地震などの自然災害対応の保険への加入	34.9%
2	ハザードマップの確認	28.2	9	家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認	14.0
3	非常用持ち出し袋の準備	22.7	10	特に何もしていない(無回答)	0.7
4	食料や飲料水の備蓄	46.6			
5	消火器の設置	22.7			
6	感震ブレーカー(※)の設置・点検	6.9			
7	県や市町などの防災メールへの登録	17.1			

※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。



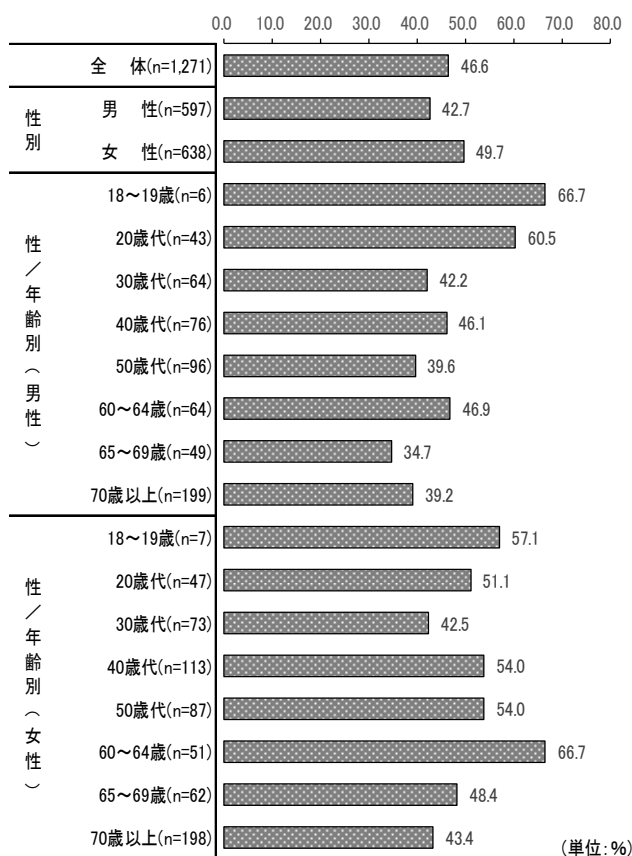
注) 「地震などの自然災害対応の保険への加入」「ハザードマップの確認」「家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認」は、令和6(2024)年の新設。

全体で見ると、「食料や飲料水の備蓄」(46.6%)が4割台後半、「地震などの自然災害対応の保険への加入」(34.9%)が3割半ば、「ハザードマップの確認」(28.2%)が3割弱となっている。

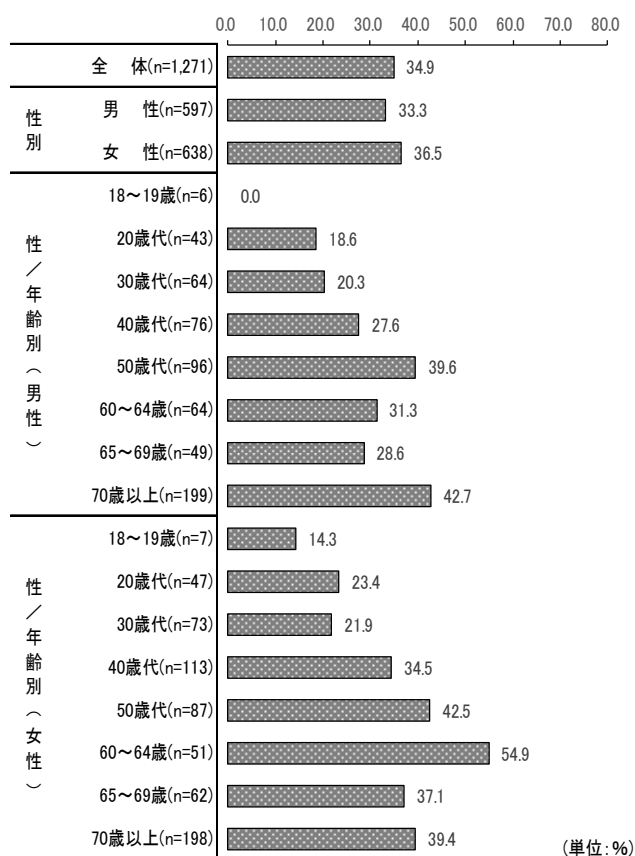
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「非常用持ち出し袋の準備」では9.8ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

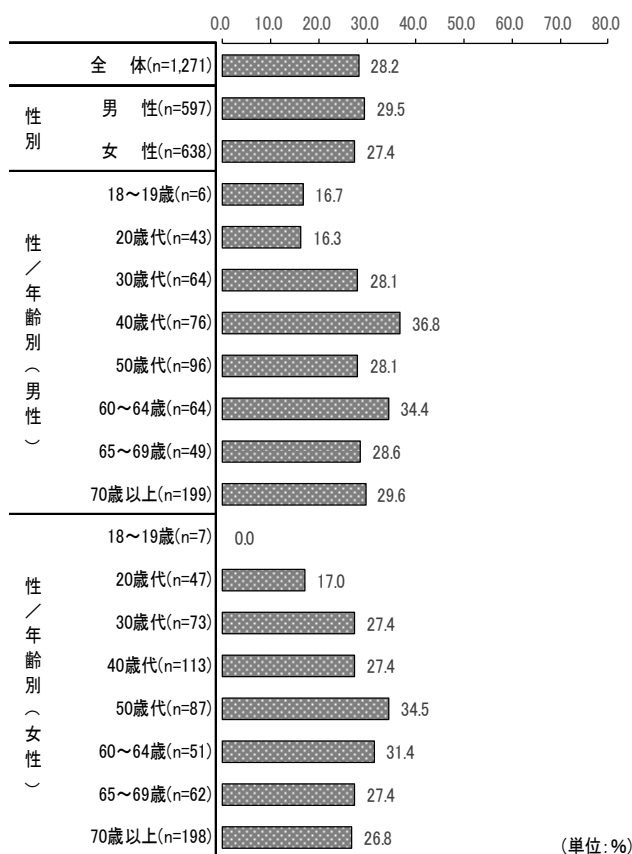
食料や飲料水の備蓄



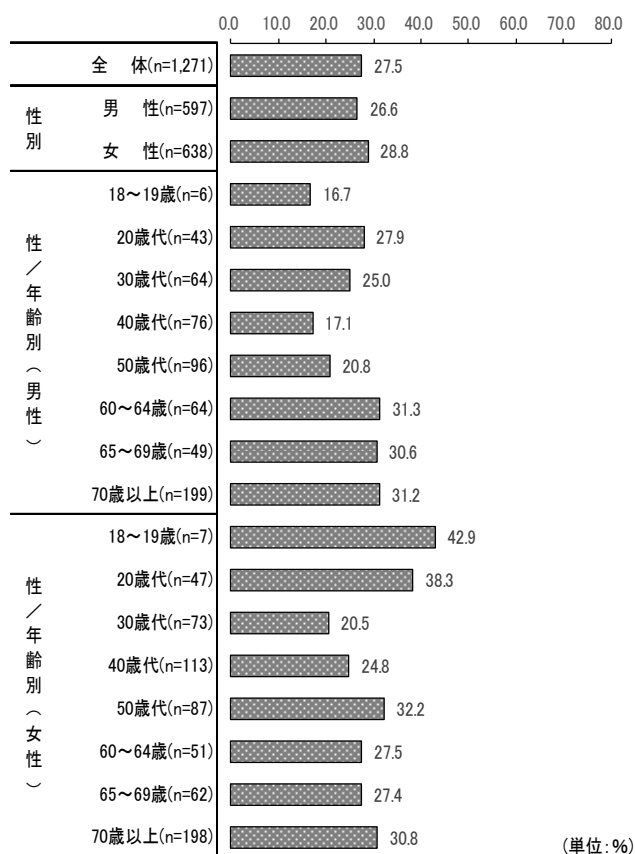
地震などの自然災害対応の保険への加入



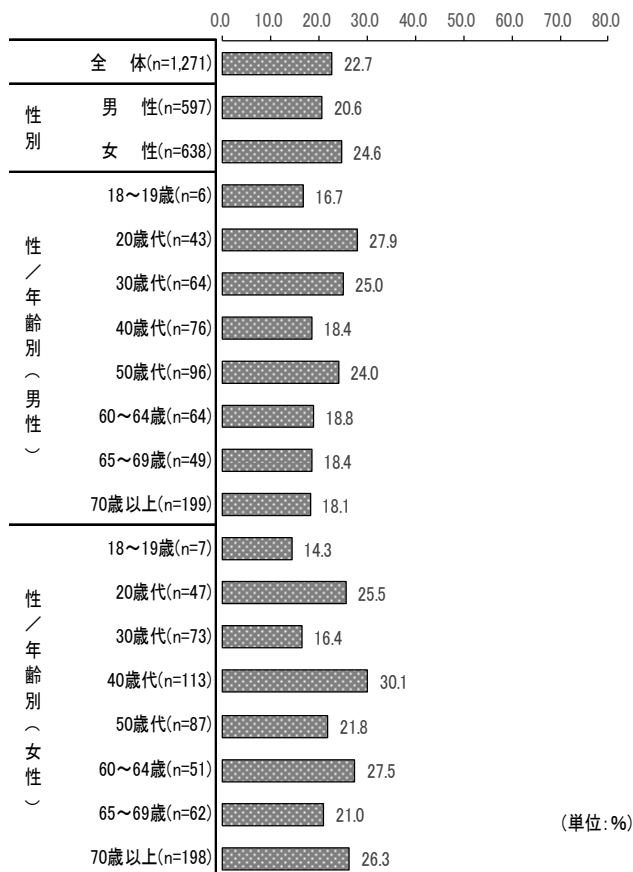
ハザードマップの確認



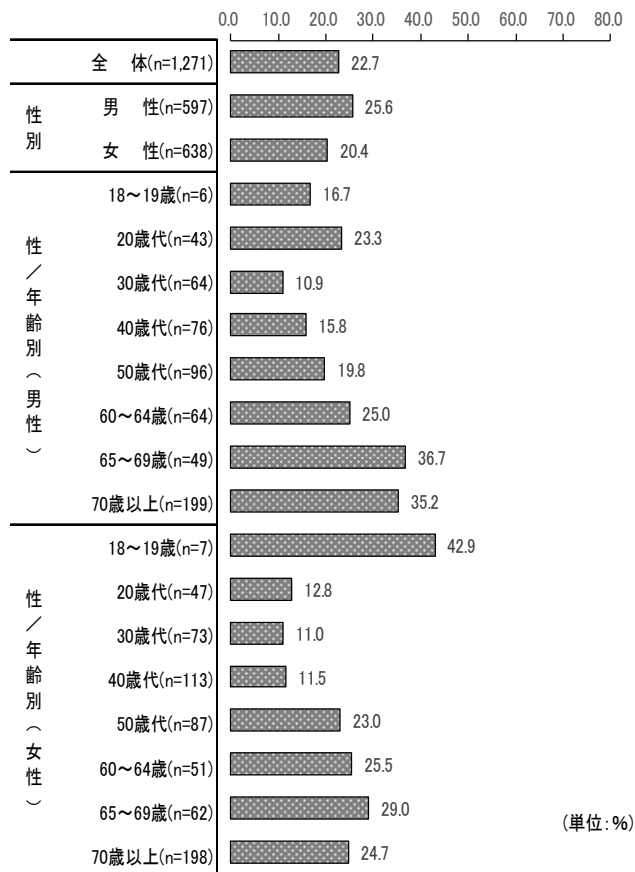
家具の転倒防止対策や配置の工夫



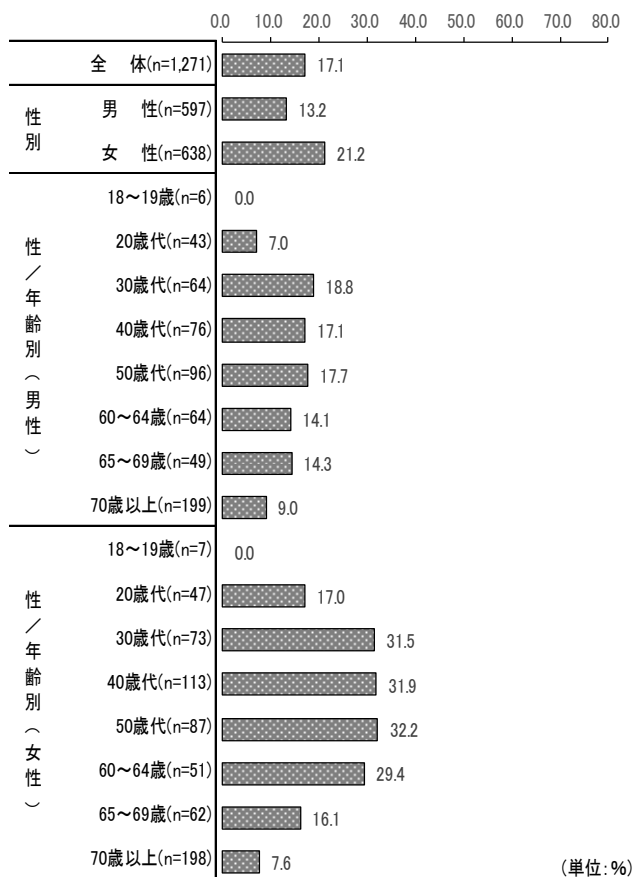
非常用持ち出し袋の準備



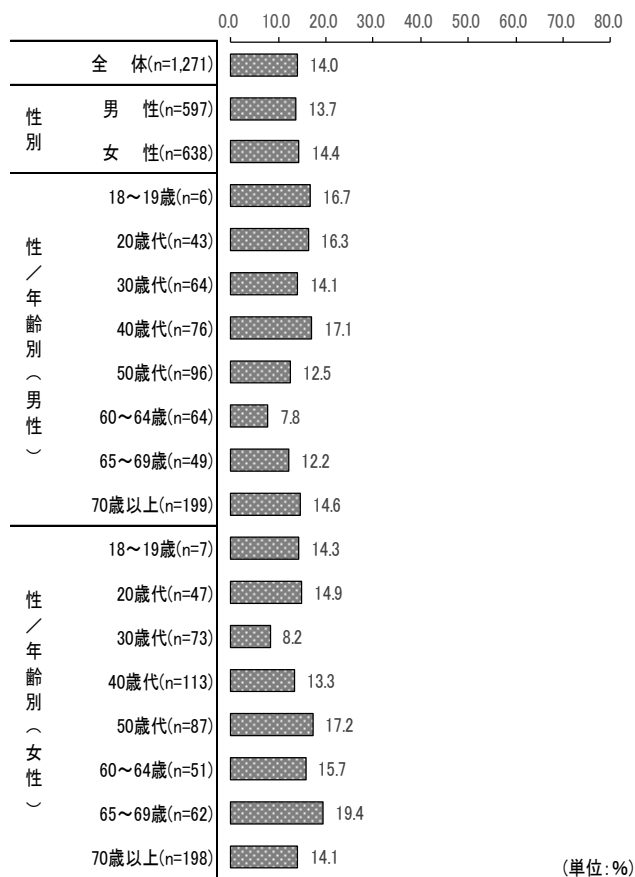
消火器の設置



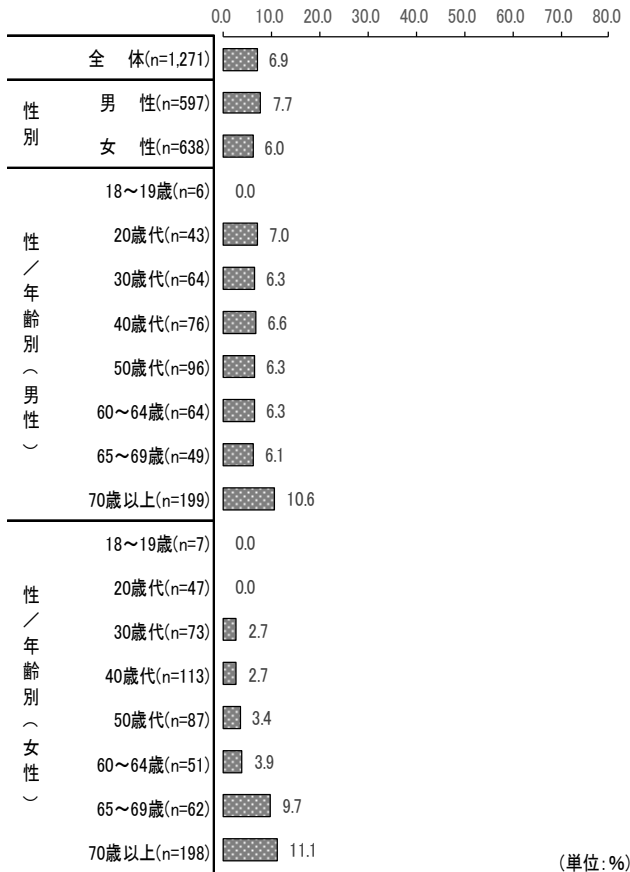
県や市町などの防災メールへの登録



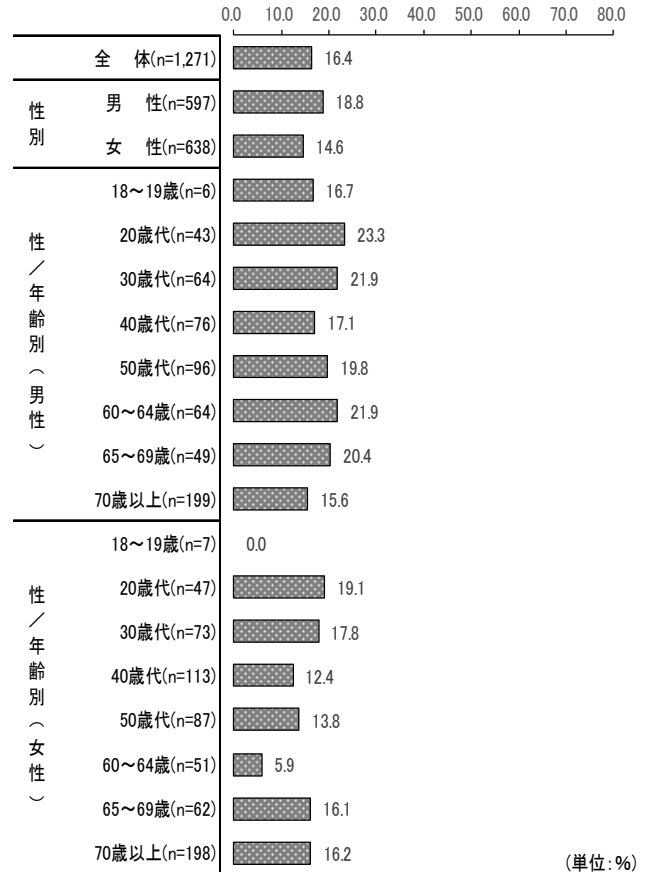
家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認



感震ブレーカーの設置・点検



特に何もしていない

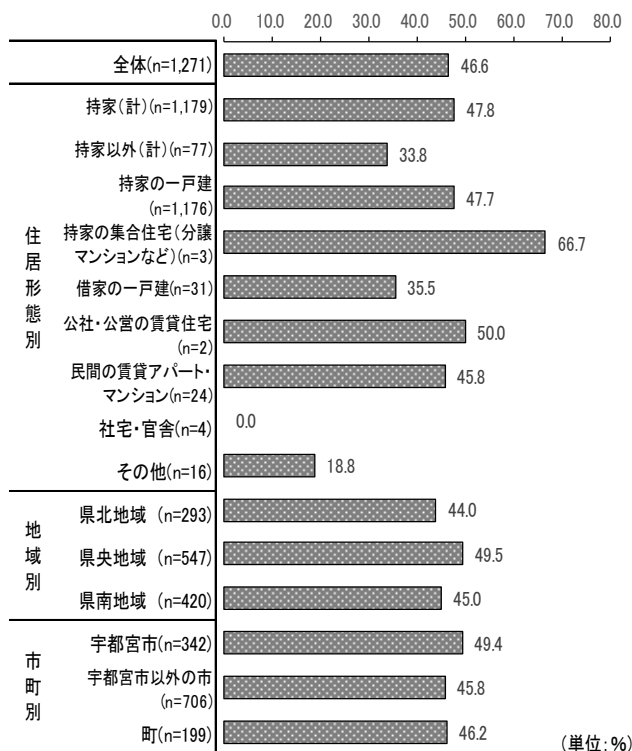


性別で見ると、「県や市町などの防災メールへの登録」では〈女性〉21.2%が、〈男性〉13.2%より8.0ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。また、「食料や飲料水の備蓄」では〈女性〉49.7%が、〈男性〉42.7%より7.0ポイント高くなっている。

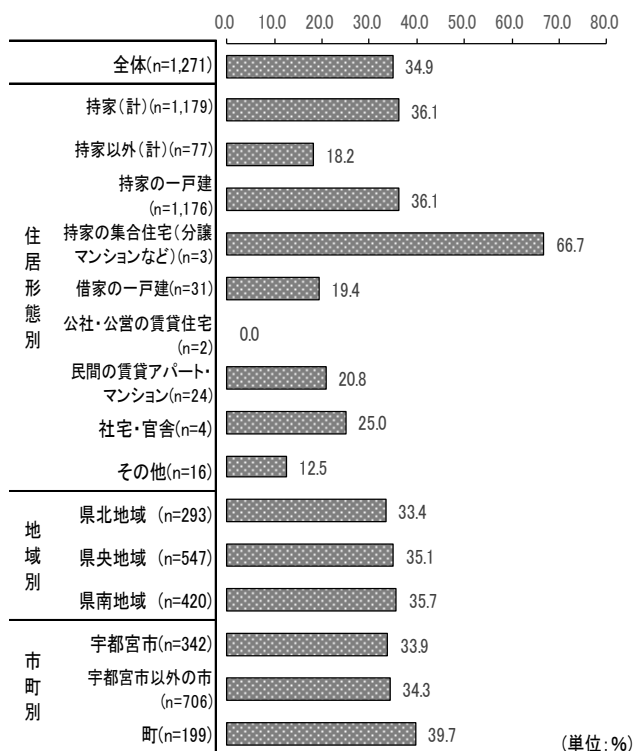
性/年齢別で見ると、「食料や飲料水の備蓄」では〈女性 60~64歳〉66.7%が最も高く、〈男性 65~69歳〉34.7%が最も低くなっている。「県や市町などの防災メールへの登録」では70歳以上を除く年代で、男性より女性の割合が高くなっている。また、30歳以上では年代が上がるにつれて概ね減少傾向で、男女ともに70歳以上では1割に満たない。

[住居形態別・地域別・市町別]

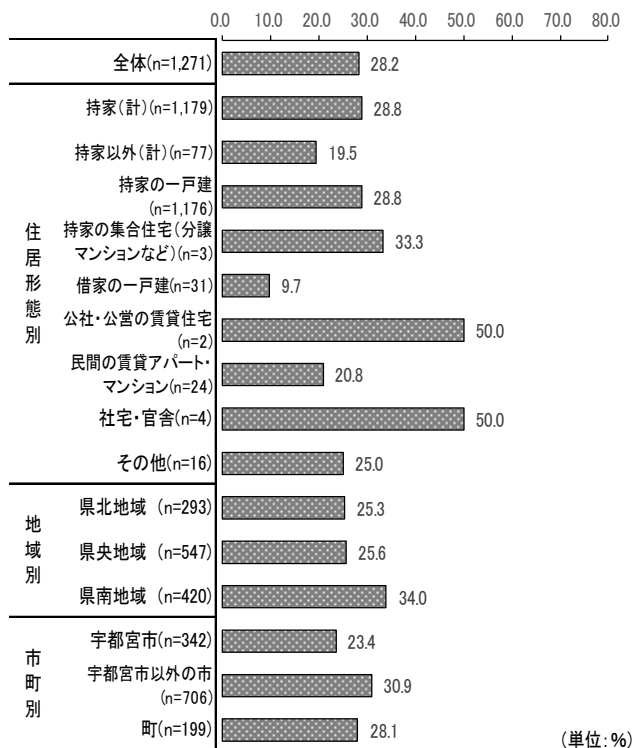
食料や飲料水の備蓄



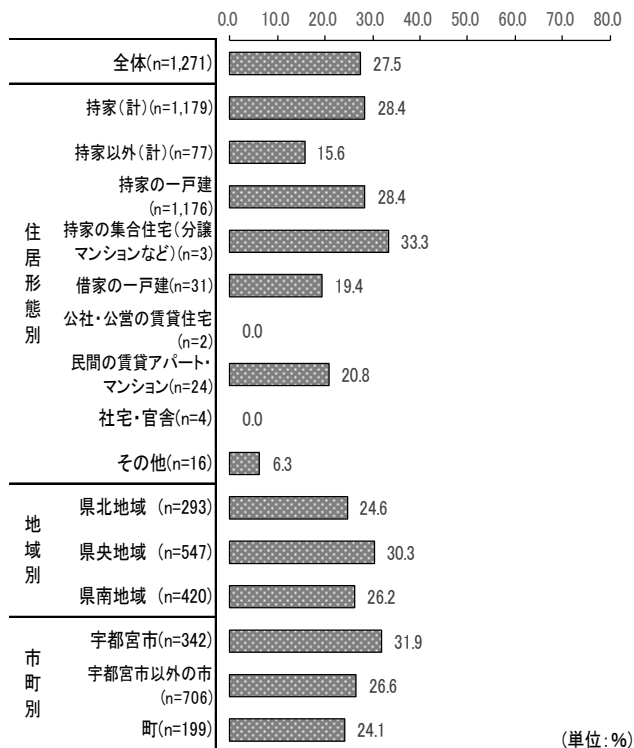
地震などの自然災害対応の保険への加入



ハザードマップの確認

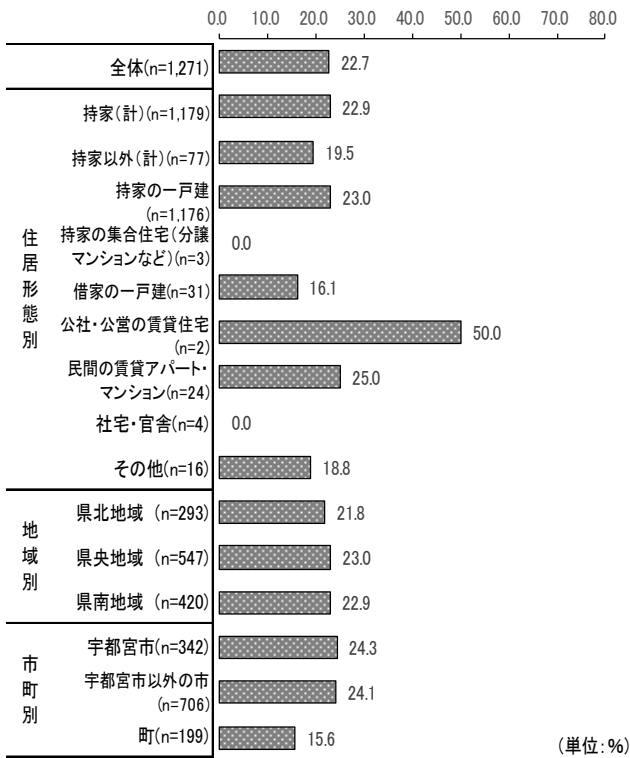


家具の転倒防止対策や配置の工夫

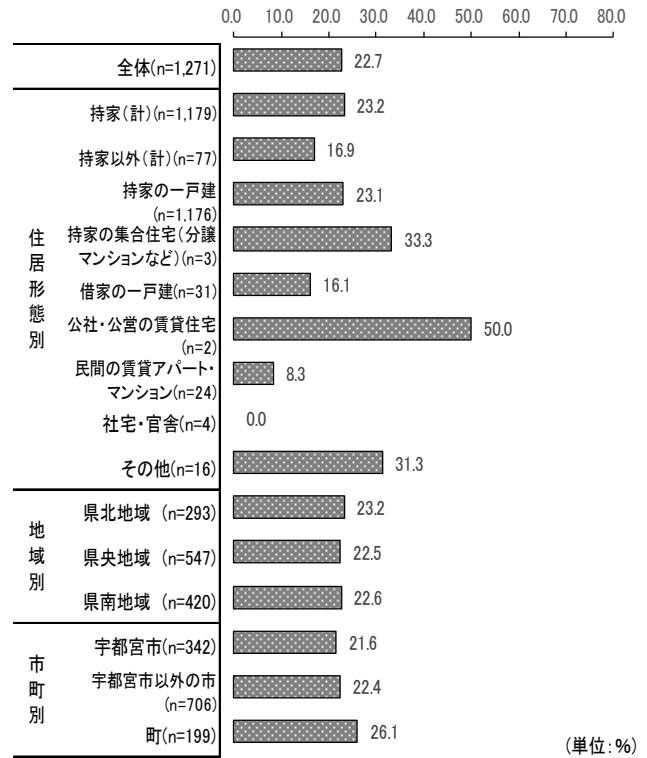




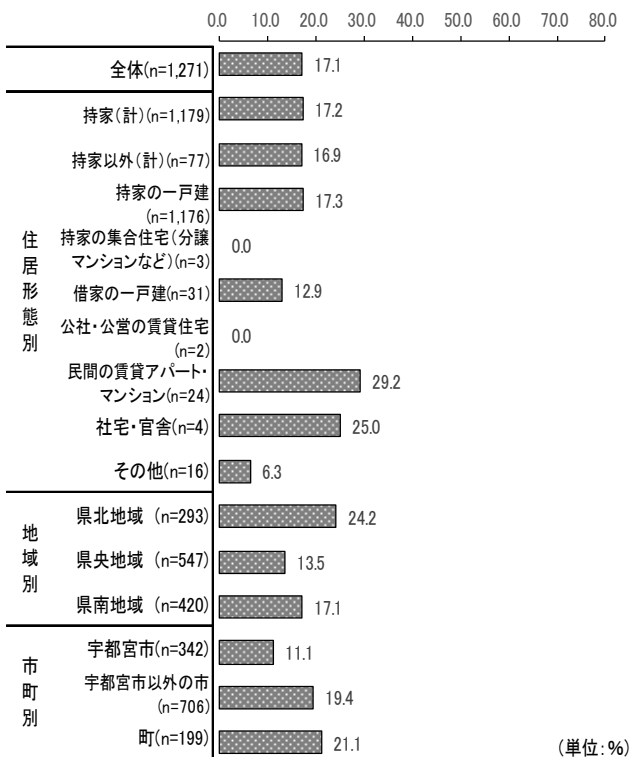
非常用持ち出し袋の準備



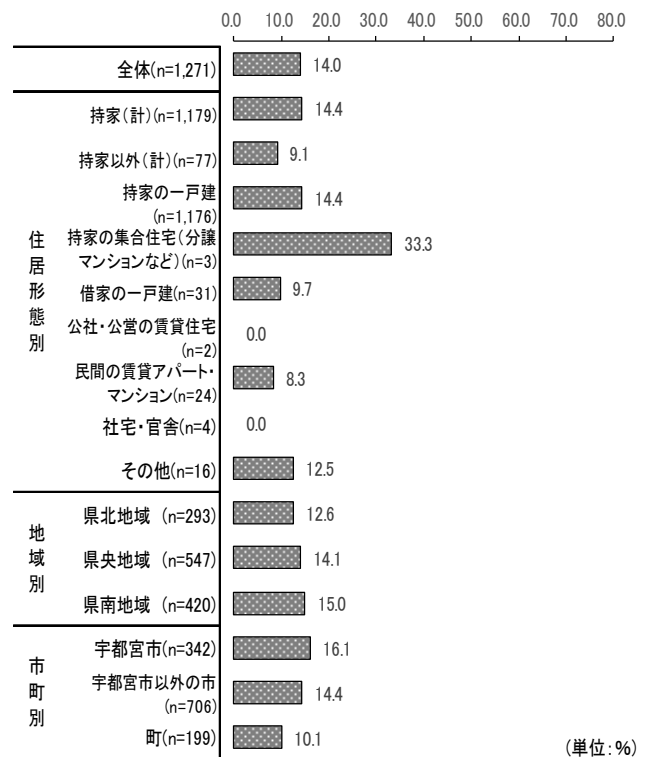
消火器の設置



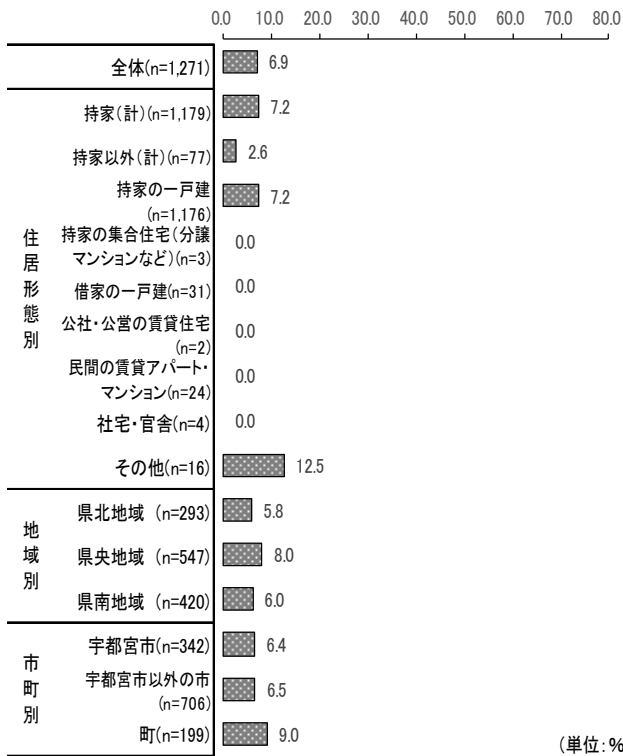
県や市町などの防災メールへの登録



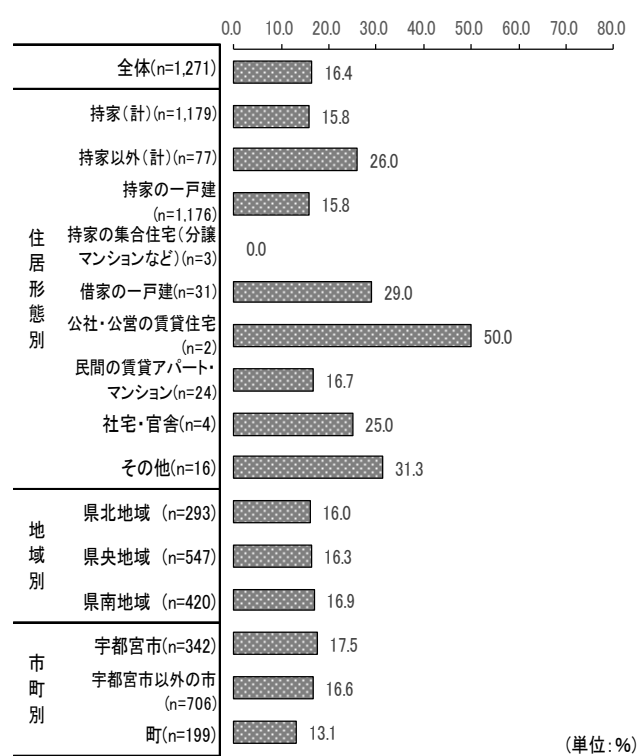
家族との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル等)の確認



感震ブレーカーの設置・点検



特に何もしていない



住居形態別でみると、「食料や飲料水の備蓄」では〈持家(計)〉47.8%が、〈持家以外(計)〉33.8%より14.0ポイント高くなっている。「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈持家(計)〉36.1%が、〈持家以外(計)〉18.2%より17.9ポイント高くなっている。

地域別でみると、「ハザードマップの確認」では〈県南地域〉34.0%が3割を超えて高く、〈県北地域〉と〈県央地域〉はともに2割半ばとなっている。「県や市町などの防災メールへの登録」では〈県北地域〉24.2%が最も高く、〈県央地域〉13.5%が最も低くなっている。

市町別でみると、「ハザードマップの確認」では〈宇都宮市以外の市〉30.9%が最も高く、〈宇都宮市〉23.4%が最も低くなっている。「家具の転倒防止対策や配置に工夫」では〈宇都宮市〉31.9%が最も高く、〈町〉24.1%が最も低くなっている。